

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	4/18(月)	4/19(火)	4/20(水)	4/21(木)	4/22(金)
無担保O/N			△0.085%	~ 0.001%	
銀行券	+ 800	ト ン	△ 1,000	△ 2,000	△ 3,000
財政他	△ 9,100	+ 3,000	△ 14,000	△ 21,000	△ 10,000
資金需給	不 8,300	余 3,000	不 15,000	不 23,000	不 13,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(30年)		国庫短期証券発行・償還(1Y)	国債発行(5年)	申告所得税揚げ
オペ期日	共通担保(全店) △ 3,300 国債補充供給 + 600 CP等買入 △ 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 3,200	短国買入 + 10,000 国債買入 + 11,900	CP等買入 + 3,000		
(日本)	業態別の日銀当座預金残高(3月)		貿易収支(3月) 実質輸出入の動向(日銀) 鉄鋼生産(3月) 訪日外国人客数(3月)	対外対内証券売買(前週分) 主要銀行貸出動向 アンケート調査(4月/日銀) 全国スーパー売上高(3月)	日銀金融システムレポート(4月) 日銀営業毎旬報告(4月20日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額
(海外)	米 NAHB住宅市場指数(4月) 米 NY連銀総裁 経済会議で冒頭発言 米 ミネアポリス連銀総裁講演 米 ホストン連銀総裁講演	米 住宅着工・建設許可件数(3月)	米 中古住宅販売件数(3月) 英 雇用統計(3月)	米 新規失業保険申請件数(16日終了週) 米 フラテルフニア連銀景況指数(4月) 米 景気先行指標総合指数(3月) 米 ブルームバーグ 消費者信頼感指数(17日終了週) 欧 ECB金融政策会合 記者会見 欧 ユーロ圏消費者信頼感(4月速報値)	欧 ECB専門家経済予測 欧 ユーロ圏財務相 ・中銀総裁会合(アムステルダム) 欧 EU財務省 ・中銀総裁会議(アムステルダム)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.085 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.085 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.085 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.085 ~ 0.001

<インターバンク>

当座預金残高は週初274兆6,000億円で始まり、12日の国庫短期証券買入オペ、15日の国債買入オペ・年金定時払い等の要因から増加、週末は285兆1,900億円となった。

無担保コールON物は、週を通して△0.04%~0.001%のレンジで取引され、同加重平均金利は△0.01%~△0.005%となった。積み最終日は、週末に当たるため前日までにポジション調整を終えた先が多く、ビッドは薄くなったが、取引水準に大きな変化は見られなかった。

18日より、信託銀行が投信等から預け入れられる金銭信託に対し、マイナス金利を適用する方針であることから、同日以降をスタート日とする取引水準は大きく低下、TN・SNでは、△0.05%近辺の出合となった。

ターム物は、15日までの積み期以内物で△0.03%近辺の出合が中心。

11日に発表された「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直し」において、2016年4月16日および5月16日を起算日とする2積み期間における基準比率は2.5%と定められた。

来週の予定は、国内では業態別の日銀当座預金残高(18日)・貿易収支(20日)、海外ではECB金融政策会合・記者会見(21日)等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.250 ~ △0.100
現先(on/1w)	0.000 ~ 0.003

<CP>

今週の入札発行額は約5,400億円で、期落ち額約3,500億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。石油やカード会社の大型案件により、発行が膨らんだ。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、0.000%~0.003%程度で推移した。

来週の期落ち額は約3,300億円程度となっている。

<TDB>

14日に国庫短期証券3M第601回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.1447%(前回債△0.1214%)、平均落札レートは△0.1689%(前回債△0.0850%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.185%近辺の出合い。6Mは△0.225%近辺の地合い、1Yは△0.205%近辺の地合いとなっている。来週は19日に1Y、21日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは、先週末にレートが上昇した流れを受け、週初△0.065%近辺の出合いから始まったが14日受渡では△0.085%~△0.095%に低下。積み最終日となる15日受渡では△0.10%台の出合いも見られた。短国3M発行日となる18日受渡では△0.07%~△0.08%近辺までレートは上昇したが、週末には短国・国債買入オペが2兆1900億円オファーされたこともあり、再度△0.085%~△0.095%まで低下した。

SC取引では、5年127回債はO/N物で週初△0.10%近辺の出合いだったが、週末には△0.30%台までレートが低下した。10年340回債は週を通して△0.50%台で多く取引された。他では5年債124・125回債、10年債336・337・338・341回債に引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。